

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
「言語の動態と多様性プロジェクト」
特任研究員募集要項

平成 25 年度よりスタートする「言語の動態と多様性プロジェクト」では、本プロジェクトにおいて中心的役割を担う研究者の一人として、自らの専門性を生かしながら、関連するさまざまな共同研究事業活動に参画する、意欲ある若手研究者を募集します。

個別言語の記述・ドキュメンテーション研究、現地還元研究及び類型論的研究などについて高度な研究能力を持つと同時に、他の研究者と連携・共同しつつ研究を展開していく志向を持った方のご応募をお待ちしています。プロジェクトの概要については添付の資料をご覧ください。

1. 応募資格

以下の条件をいずれも満たす方とします。

- a. 自らのフィールドワークを通して得られたデータによる記述的研究を基盤とした言語研究を専攻している方。
- b. 博士の学位を有するか、博士の学位取得者と同等の学識を有する方。
- c. 採用時に常勤の職に就いていない方。

* (独)日本学術振興会の特別研究員との兼任はできません。

* 国籍は不問です。ただし、業務に支障のない日本語能力が必要です。

2. 勤務条件

- (1) 本学特定有期雇用就業規則及び給与規程に定めるところによります。
- (2) 勤務時間は週 38 時間 45 分（裁量労働制 1 日 7 時間 45 分みなし労働）
- (3) 給与は月 25～30 万円前後支給されます（経歴等により増減あり）。通勤手当は支給されます。賞与、扶養手当、住居手当、赴任手当等は支給されません。雇用保険・社会保険の適用あり。
- (4) 雇用期間は平成 25 年 8 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで(更新予定あり)

3. 職務内容

個別言語に関する自らの記述研究を推進するとともに、本プロジェクトの活動に関連したさまざまな共同研究やセミナー、ワークショップ、シンポジウムなどの企画立案、実施、運営に参画します。本プロジェクトに関わる若手研究者のリーダーとしての役割も担います。

4. 募集人数 2 名

5. 提出手続

提出書類は、下記「10. 問合せ先」まで書留にて郵送してください。

締切日は、平成 25 年 4 月 30 日（火）消印有効とします。

なお、封筒に『言語の動態と多様性プロジェクト特任研究員 応募書類在中』と朱書きしてください。

6. 選考方法

第 1 次審査として書類審査を行い、第 1 次審査合格者を対象に面接（面接は 5 月 25 日（土）の予定。面接の際の交通費は本人負担とします。）

7. 選考結果通知 平成 25 年 6 月末（予定）

8. 採用予定年月日 平成 25 年 8 月 1 日

9. 提出書類

- (1) 履歴書（市販横書き用紙に準じるもの、写真貼付）
- (2) 主要研究業績一覧
- (3) 主要論文等 3 点以内（コピー可。返却希望者は返信用封筒に住所・氏名を記入し、切手を貼付すること。宅配便での返却は封筒に料金着払い(本人負担)のラベルを貼って同封すること。）
- (4) 研究履歴書（フィールドワークの経歴も含め、1,200 字程度で書いてください。）
- (5) 研究計画書（今後の研究計画について、1,200 字程度で書いてください。）
- (6) 企画案自由作文（あなたが国際的な共同研究〈国際シンポ開催、研究交流、研究連携など〉を主催するとした場合、どんなテーマでどのように実行したいか、具体案を自由に書いてください。予算の制限はないものとしてお考えください。）
- (7) 参考意見をお聞きできる方の氏名と連絡先（2 名以内）
- (8) 返信用定型封筒(応募者の住所・氏名を記載のうえ 80 円切手を貼付)

10. 問合せ先

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
共同研究拠点係

（質問については、必ず文書又は e-mail でお願いします。電話によるお問い合わせには、お応えできません。）

e-mail: aajimu@tufs.ac.jp

「言語の動態と多様性プロジェクト」事業の概要

【目的】

危機言語問題および言語の多様性の解明に関して、これまで国際的に展開されてきた学術的研究連携活動を集約し、さらにその成果を社会的に応用・還元していく研究統合拠点を構築する。また、その拠点機能を長期的に持続させるために、国際コンソーシアム及び研究連携プラットフォームを基盤とする連携・相互支援体制を構築し、共同研究リーダー育成や大学をこえたトレーニングの提供を通して将来につながる研究コミュニティーを形成する。

【取組内容の概要】

I. 危機言語・言語多様性に関する2つのネットワークの確立

a) 学術的ネットワークの拡充

- ・ 危機言語の調査研究の推進と成果のデジタル化・資源化
- ・ 言語多様性の類型と差異の深さに関する研究・データベース構築

b) 研究還元ネットワークの構築

- ・ 学術研究の応用・還元に関する手法研究と普及
- ・ 危機言語コミュニティーとの共同研究・アウトリーチ・問題解決能力育成活動

II. ネットワークの基盤となるインフラの整備

- ・ 研究の有機的連携・融合を支えるオンライン共同研究プラットフォームの構築
- ・ 言語調査データのアーカイブ・資源共有体制構築
- ・ 研究資源の共同利用と研究連携に関する新しい手法の研究と普及

III. ネットワークを継承する次世代研究者の育成

- ・ 大学の枠をこえた若手研究者トレーニング環境の提供および研究コミュニティーの育成
- ・ 共同研究の先導・企画運営の実践的経験を積むための雇用機会の提供